SPANCRETE
CORPORATION

Investors' Guide IR 2010

会社情報

成田新高速鉄道　印旛沼付近（防音壁）

株式会社 スパンクリート コーポレーション

本　　社

〒113-0033　東京都文京区本郷４-９-25

Tel：03-5689-6311　Fax：03-5689-6321

www.spancretecorp.com

JASDAQ　〈 JASDAQ・コード　5277 〉

みなさまとのコミュニケーションを大切に

インベスターズガイドについて

インベスターズガイドは、株主ならびに投資家のみなさまに、当社の財務内容を正確にお伝えするとともに、みなさまとのコミュニケーションの手段として発行を続けてまいりました。毎年約100通のアンケートの回答をいただき、ご意見の一部を編集に反映させていただいております。今後ともみなさまからのご意見をいただきたいと存じますので、同封のアンケート用ハガキにてお寄せいただければ幸いです。

■ 2010年3月期について

2010年３月期は、売上高31億９千万円（前年同期比26.6%減）と大幅な減収となり、営業損益でも11期振りの損失９千万円（前年同期２億円の営業利益）の赤字計上となりました。

主力のスパンクリート事業は景気減速によるマンションを始めとする建設需要減の影響をまともに受け、出荷数量が前年同期比43.2%減少し、売上高は29億２千万円（前年同期比28.4%減）と大きく減収、一方で原材料価格が高止まりする中、生産数量も前年同期比43.8%減少、特に年度後半は予想を超える工場操業度の落ち込みにより工場の採算が大幅に悪化したこと等から、営業損失２億３千万円（前年同期７千万円の営業利益）と赤字計上を余儀なくされました。

なお、不動産事業は賃貸ビル３棟収益が安定的に推移し引き続き当社収益を下支えしております（営業利益１億４千万円＝前年同期比8.0%増）。

一方、営業外収益は余資運用益の減少等により前年同期比１千万円減少しており、経常損益も３千万円の損失計上（前年同期２億７千万円の経常利益）と、12期振りの赤字となり、更に投資有価証券の減損処理等の特別損失１億１千万に加え、繰延税金資産の取崩し等も発生しております。

以上により、当期の当期純損益は、損失２億２千万円（前年同期２億２千万の純損失）と、２期連続の赤字決算となりました。

■ 2011年3月期の業績予想

2011年３月期は、景気の先行きに対する不透明感が払拭されない中、建設業界を取り巻く環境は厳しさを増しており、その影響下にある当社スパンクリート事業はかなりの苦戦が見込まれます。同事業の受注数量回復のテンポは弱く、かつ原材料の再度の値上げの動きもあるため、本社・工場の踏み込んだ合理化努力を講じても同事業の収益回復には相当の努力が必要になります。従って、不動産事業の賃貸ビル３棟の安定収益は見込まれるものの、スパンクリート事業のリスク要因を勘案し、全体としては売上高32億円（10年３月期比0.3%増）、営業利益７千万円（10年３月期９千万円の営業損失）、経常利益８千万円（10年３月期３千万円の経常損失）、当期純利益４千万円（10年３月期２億２千万円の当期純損失）を見込んでおります。

■ 対処すべき課題

当社は、「穴あきPC板」と呼ばれるコンクリート部材を建設業界に提供しております。需要全体が減少に向かっている環境下で、当社はこのスパンクリートを安定的に供給出来る体制を強化し、顧客のニーズに対応してまいりたいと考えております。

このため、当社は次の経営方針を立て、経営基盤の強化を図っていきたいと考えております。

①スパンクリート事業の徹底した効率化を図り、コスト競争力を強化する。顧客満足度経営を重視し、顧客ニーズへの即応体制を構築し、徹底した製品品質改善に努める。
②スパンクリートの販路を再構築し、建築需要の増加している分野に営業力のシフトを行う。
③スパンクリートと密接に関連したより付加価値の高い新製品の開発に努める。
④トヨタ生産方式を土台とするNPS改善活動に取り組み、生産向上とコスト削減に注力する。
⑤収益基盤の安定化を図るために、不動産事業の着実な推進を図る。

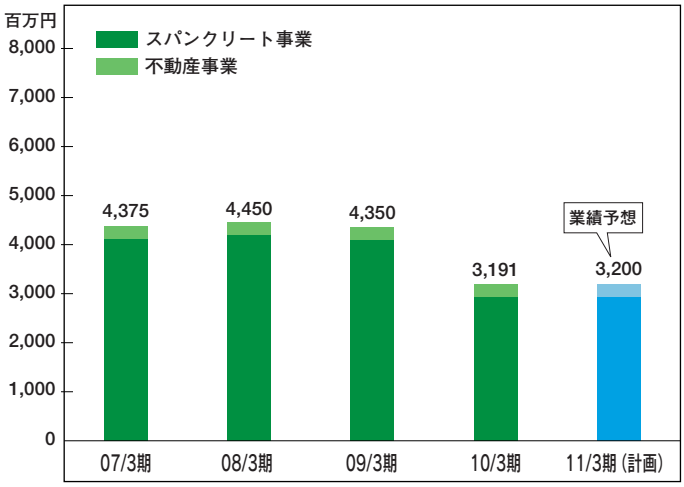
以上の経営方針を中長期的な経営課題の実現策として強力に推進してまいります。

斯かる状況下において当社が取り組まなければならない喫緊の課題は、「減収（数量減）でも利益の出る体制の構築」であります。今次難局を乗り切る具体的な方策は次の通りと考えております。

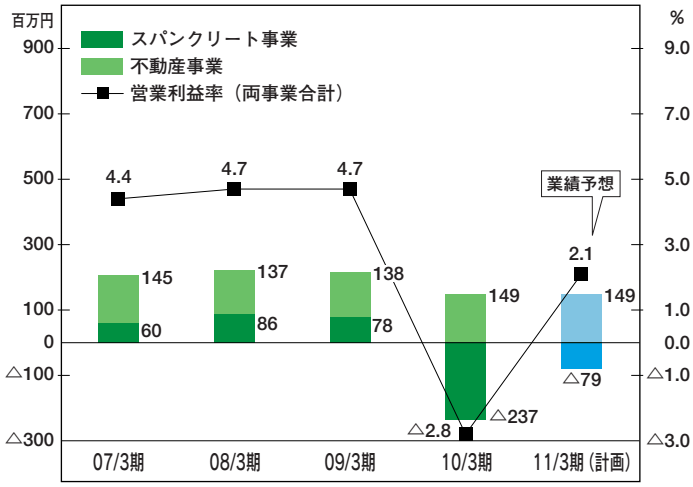
一つ目は、会社の構えの調整の円滑化であります。出荷のタイミングにより生産調整を行う必要があり、この構えを迅速かつきめ細かく調整することが会社のトータルコストを引き下げる上で極めて重要なポイントになり、工場の集約、一時休止を弾力的に実施します。二つ目は、製造コストの引き下げであります。NPS改善活動を活用して最適生産効率を追求し、且つ品質向上を図ります。更に相当の苦戦が予想されますが原材料価格の値下げを強力に推進していく必要があると考えております。三つ目としては、本社費のスリム化であります。構えの調整に合わせて本社人員の圧縮（含む工場への配置転換）・機構改革と本社の移転等、聖域のない経費削減を実施してまいります。四つ目は、営業面で営業粗利益率の向上に努力することであり、付加価値の高い新製品と相対的に利益率の高い壁板の拡販に注力してまいります。

以上の方策を総動員しても今次難局下での収益確保には相当の努力を要し、ハードルが高いものと認識しておりますが、この経営課題を実現するために、当社では6月に経営陣の刷新を行い、齊藤建次新社長が就任致しました。今後とも社員一丸となり難局に取り組んでいく覚悟であります。

売上高



営業利益



損益計算書要旨

（単位：百万円）

	08/3期	（%）	09/3期	（%）	10/3期	（%）
売上高	4,450	100.0	4,350	100.0	3,191	100.0
売上原価	3,655	82.1	3,571	82.1	2,772	86.9
販売費および一般管理費	581	13.1	572	13.1	509	16.0
営業損益	213	4.8	206	4.8	△90	△2.9
営業外損益	86	1.9	63	1.4	53	1.7
経常損益	299	6.7	270	6.2	△37	△1.2
特別損益	△55	△1.2	△503	△11.6	△118	△3.7
税引前当期純損益	244	5.5	△233	△5.4	△156	△4.9
法人税、住民税及び事業税	131	2.9	12	0.3	10	0.3
法人税等調整額他	△16	△0.3	△20	△0.5	58	1.9
当期純損益	128	2.9	△225	△5.2	△226	△7.1

スパンクリート事業　2,926百万円
不動産事業　264百万円

スパンクリート事業　△237百万円
不動産事業　149百万円
共通費用　△2百万円

投資有価証券の減損処理等

キャッシュ・フロー計算書

（単位：百万円）

	08/3期	09/3期	10/3期
営業活動によるキャッシュ・フロー			
税引前当期純損益	244	△233	△156
減価償却費	173	172	153
運転資金の増減額	591	210	786
法人税等の支払額	△49	△104	△5
営業活動から得たキャッシュ	959	45	778
投資活動によるキャッシュ・フロー			
投資有価証券の取得による支出	△953	△791	△401
投資有価証券の売却による収入	838	735	591
投資有形固定資産の取得による支出	△117	△49	△78
その他投資等の増減額	85	15	△17
投資活動から得たキャッシュ	△147	△90	95
財務活動によるキャッシュ・フロー			
短期借入金の返済による支出	—	△100	△100
長期借入金の返済による支出	△100	△100	△75
自己株式の取得による支出	△82	△40	△28
自己株式の処分による収入	—	—	31
株式の発行（ストックオプション）による収入	—	0	0
配当金の支払額	△65	△63	△32
財務活動から得たキャッシュ	△248	△304	△203
現金及び現金同等物に係る換算差額	1	△6	3
現金及び現金同等物の増減額	564	△355	674
現金及び現金同等物の期首残高	1,767	2,332	1,873
資金の範囲の変更による現金及び現金同等物の増減額	—	△102	—
現金及び現金同等物の期末残高	2,332	1,873	2,548

減価償却費・売上債権の減少・たな卸資産の減少による資金の増加が税引前当期純損失及び仕入債務の減少を上回ったため増額

投資有価証券の売却による収入が投資有価証券及び有形固定資産の取得資金の支出を上回ったため増額

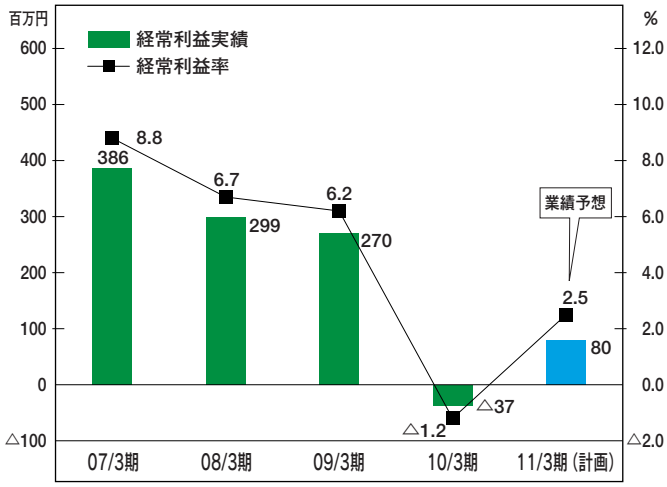
自己株式の処分による収入を借入金の返済、自己株式の取得及び配当金の支払による支出が上回ったため減少

財務諸表コメント

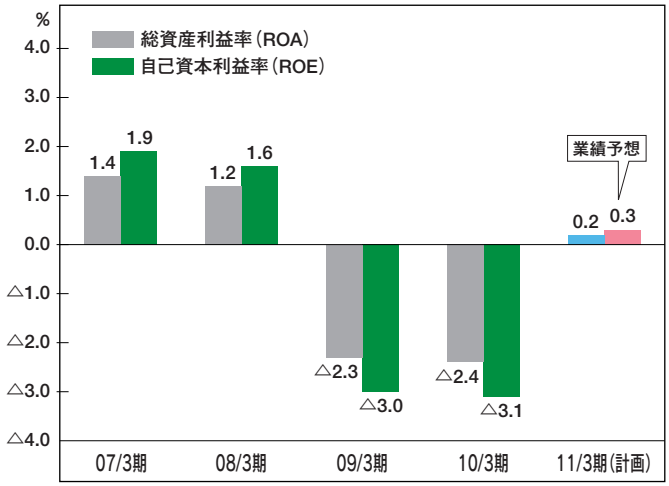
〔09/3期〕　不況による建設需要減、特にマンション向床材減少の影響が大きく、北陸、九州新幹線防音壁やトンネル天井板等の下支えはあったものの前年比僅かながら減収減益となっております。また株式市場の低迷により投資有価証券強制減損処理395百万円を特別損失に計上しております。

〔10/3期〕　景気減速による建設需要減、原材料価格が高止まりする中、予想を超える工場操業度の落ち込みにより工場の採算が大幅に悪化したこと等から赤字計上を余儀なくされました。

経常利益



総資産利益率・自己資本利益率



貸借対照表要旨〈資産の部〉

（単位：百万円）

	08/3期	09/3期	10/3期	(%)
資産の部				
流動資産	**3,983**	**3,860**	**3,752**	**40.6**
現金及び預金	1,917	1,587	2,262	
受取手形及び売掛金	1,157	1,309	426	
完成工事未収入金	39	5	98	
有価証券	545	588	738	
たな卸資産	262	287	180	
繰延税金資産	56	72	29	
その他	3	8	16	
固定資産	**6,500**	**5,868**	**5,481**	**59.4**
有形固定資産	**4,669**	**4,560**	Point ① **4,456**	**48.3**
建物及び構築物	1,206	1,157	1,101	
機械装置及び運搬具	327	287	243	
工具、器具及び備品	13	13	10	
土地	3,114	3,099	3,099	
建設仮勘定	6	1	1	
無形固定資産	**23**	**12**	**11**	**0.1**
投資その他の資産	**1,808**	**1,296**	**1,014**	**11.0**
投資有価証券	1,543	1,057	Point ② 760	
長期貸付金	28	21	32	
繰延税金資産	15	—	—	
その他	236	225	229	
貸倒引当金	△17	△8	△8	
資産合計	**10,483**	**9,728**	**9,234**	**100.0**

Point ① 建物・機械等の償却等により減少
Point ② 時価の下落、流動資産への振替等で減少

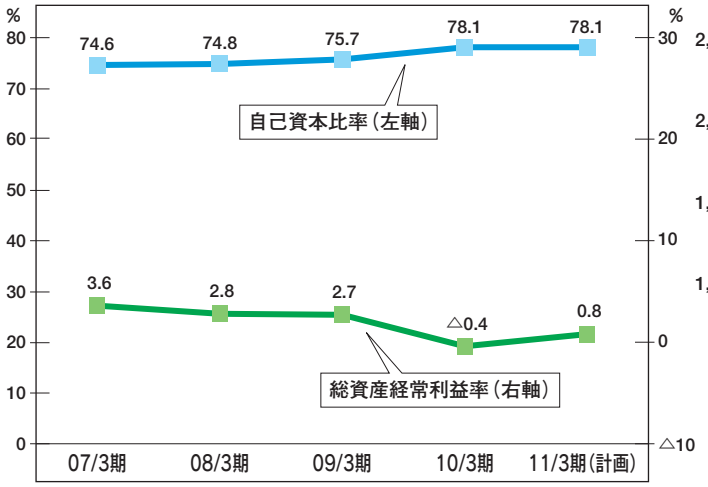
貸借対照表要旨〈負債・純資産の部〉

（単位：百万円）

	08/3期	09/3期	10/3期	(%)
負債の部				
流動負債	**1,671**	**1,547**	**1,150**	**12.5**
買掛金	84	93	52	
工事未払金	137	161	77	
短期借入金	900	800	700	
一年内返済予定の長期借入金	100	75	—	
未払法人税等	107	12	33	
その他	341	404	286	
固定負債	**972**	**816**	**871**	**9.4**
長期借入金	75	—	—	
長期未払金	100	12	69	
再評価に係る繰延税金負債	693	693	693	
その他	103	109	108	
負債合計	**2,644**	**2,363**	**2,021**	**21.9**
純資産の部				
株主資本				
資本金	3,295	3,295	3,295	35.7
資本剰余金	3,710	3,710	3,696	40.0
利益剰余金	1,373	772	513	5.6
自己株式	△277	△317	Point ③ △300	△3.2
評価・換算差額等				
その他有価証券評価差額金	△28	△173	△71	△0.8
土地再評価差額金	△234	77	77	0.8
純資産合計	**7,839**	**7,365**	**7,212**	**78.1**
負債純資産合計	**10,483**	**9,728**	**9,234**	**100.0**

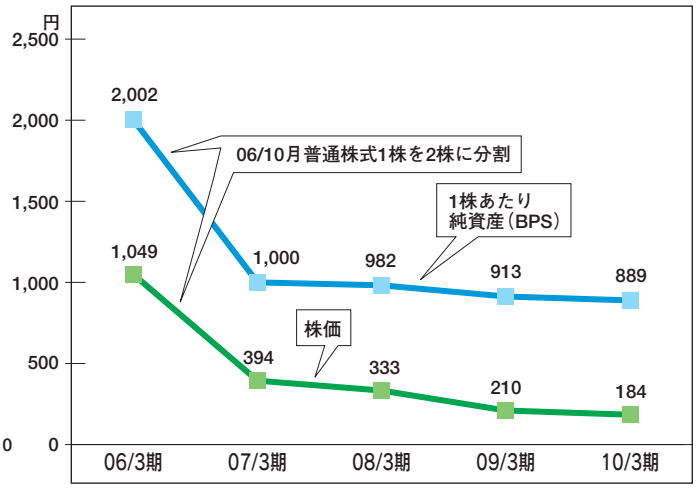
Point ③ 自己株式149千株を期中に取得し、期末残は1,198千株

自己資本比率と総資産経常利益率



株価の推移（終値）

期末株式総数 9,304,400株
うち自己株式 1,198,318株



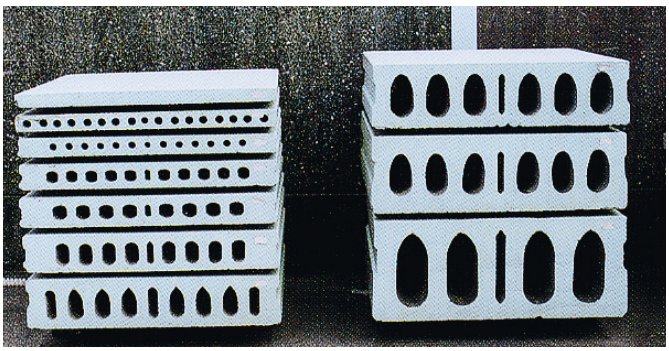
ごあいさつ

代表取締役社長
齊藤　建次

株主 投資家のみなさま、この度、原田穣の後任として代表取締役社長に選任されました齊藤建次と申します。ひとことご挨拶をさせていただきます。

当社は、2010年3月期において、2億2千万円もの当期損失を計上してしまいました。売上高の落ち込みが主な原因ですが、32億円という売上高は実質的には20年前に戻ってしまったものです。これを、リーマンショックに端を発した一連の世界不況のせいだと片付けることは簡単ですが、今後の自助努力なくしては回復の道はあり得ません。今後は、冒頭にも記載しました通り、取り得る有効手段をすべて粛々と実行に移し会社の業績を一日でも早く改善するしかありません。私も極めて厳しい環境下での社長就任となった訳ですが、今後は社員一丸となって頑張り、みなさまへの責任を果たす所存です。よろしくお願い申し上げます。

スパンクリート



スパンクリート標準製品。PC鋼線の入った穴あきPC板。床材として、また壁材として建築から土木まで多目的に使用可能な材料です。厚さ7cmから35cmまで17種類。高耐力、ロングスパンが売り物です。

今期施工の主な建物

〈倉庫〉外壁・合成床

埠頭倉庫の外壁・床に採用されました。
後方のレインボーブリッジにもスパンクリートが使われています。

〈倉庫〉壁・合成床・Jスラブ（新製品）

外壁部分は仕上げを全くせず、スパンクリート板の素地のままで使用しています。

〈体育館〉床

墨田区総合体育館のアリーナ席床板として全面的に採用されています。

〈学校〉壁

スパンクリートとプレキャストコンクリート（型枠製品）の組合せでデザイン性を持たせています。

〈防音壁〉

北陸新幹線 黒部BL（糸魚川付近）高架。
後方は立山連峰です。

〈防音壁〉

北陸新幹線 歌川（親不知付近）スノーシェルター。
（防雪緩衝工）
トンネル出入り口に併設されます。

資料請求、お問い合わせは…　株式会社スパンクリートコーポレーション
ＩＲ担当　野崎京子
〒113-0033 東京都文京区本郷４－９－25
電話 03（5689）6311

制作協力：　株式会社プロネクサス
営業３グループ　大木整
〒105-0022 東京都港区海岸１－２－20 汐留ビルディング
電話 03（5777）3014

新製品トピックス

□スパンクリート多自然型PCポーラスパネル

スパンクリート多自然型PCポーラスパネルは、当社がこれまで建築用として販売していたポーラスパネルを土木用に、特に河川護岸の水際、および都市部の壁面緑化等に使用出来るように様々な改良を加えたパネルです。
植生緑化機能を促進し、治水機能の強化や生態系の保護や環境の回復を図るための工夫が凝らされております。
今回、茨城県の発注で稲敷市丸堀池の護岸の擁壁として初めて採用されました。
今回採用されたものは多自然型緑化タイプでスパンクリートの中空孔が生態系の生息域として機能するとともに、水質浄化にも役立つものとして期待されています。
今後は同様の土木分野へ拡充を図ってまいります。

□Mスラブの展開

関東の私鉄6社に納入実績が出来ており、今後の引合いも増加しています。

東京都日暮里駅

千葉県成田空港駅

神奈川県元住吉駅

神奈川県横浜駅

会社の概要

1．会　社　名　株式会社スパンクリートコーポレーション
（英文名）　SPANCRETE　CORPORATION
2．設　　立　1963年（昭和38年）３月23日
3．資　本　金　32億9,589万円（2010年３月31日現在）
4．役　　員　代表取締役社長　齊　藤　建　次
常務取締役　村　山　典　子
常務取締役　飯牟礼　　聡
取締役相談役　原　田　　穣
＊　取　締　役　坪　井　正　規
＊　取　締　役　山　水　聖　治
＊　取　締　役　分　藤　　潔
常勤監査役　森　田　　巌
＊＊　監　査　役　阿　部　裕　三
＊＊　監　査　役　清　水　雄　輔
（2010年６月24日現在）
＊は社外取締役です
＊＊は社外監査役です
5．本　　社　東京都文京区本郷４-９-25
〒113-0033　TEL（03）5689-6311
（2010.7.12より）
東京都文京区湯島２-４-３
〒113-0034　TEL（03）5689-6311
仙台営業所　宮城県仙台市青葉区旭ヶ丘３-６-12
平和マンション旭ヶ丘208号室
〒981-0904　TEL（022）272-1901
宇都宮工場　栃木県宇都宮市平出工業団地8-5
〒321-0905　TEL（028）661-2211
岩瀬工場　茨城県桜川市岩瀬2161-1
〒309-1211　TEL（0296）75-5711
6．取引銀行　みずほ銀行（丸の内中央支店）
三菱東京UFJ銀行（神田駅前支店）
りそな銀行（上野支店）
三菱UFJ信託銀行（本店）

主要取引先

設計事務所　三菱地所(株)・(株)日本設計・(株)日建設計・(株)日建ハウジングシステム・東電設計(株)・(株)松田平田設計・(株)梓設計・(株)創元設計・(株)横河建築設計事務所・(株)ジェイアール東日本建築設計事務所・独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構・(株)久米設計・(株)石本建築事務所　他
商　　社　三菱商事(株)・三菱商事建材(株)・三井住商建材(株)　他
建設会社　鹿島建設(株)・大成建設(株)・清水建設(株)・(株)竹中工務店・(株)大林組・前田建設工業(株)・戸田建設(株)・西松建設(株)・三井住友建設(株)・鉄建建設(株)　他

宇都宮工場

大株主

1　三菱商事(株)　　2　日本スパンクリート機械(株)
3　鈴木金属工業(株)　　4　村山 好弘
5　遠山偕成(株)

会社の沿革

1963年　３月　スパンクリート製造株式会社（旧社名）設立
資本金1,000万円　代表取締役社長　村山好弘就任
４月　資本金4,000万円に増資
７月　資本金１億円に増資
1964年　２月　宇都宮第１工場屋外生産設備完備　試作開始　営業開始
７月　資本金２億円に増資
1970年　10月　宇都宮第２工場建設完了　生産開始
1971年　４月　日本スパンクリート協会を設立　会長に当社代表取締役社長村山好弘就任
1975年　10月　空胴プレストレストコンクリートパネル工業協会（穴あきＰＣ板工業協会）設立
会長に当社代表取締役社長　村山好弘就任
1976年　５月　ＪISA6511（空胴プレストレストコンクリートパネル）制定される
1979年　12月　資本金２億3,000万円に増資
1982年　12月　宇都宮工場　ＪIS 指定工場となる
1984年　３月　スパンクリート合成床工法　建設大臣認定を取得
７月　宇都宮第３工場生産設備完了　生産開始
1988年　11月　資本金２億9,000万円に増資
1989年　５月　スパンクリート合成床工法　特許を取得
10月　資本金４億2,434万円に増資
11月　資本金14億9,759万円に増資
11月　岩瀬工場建設完了　生産開始
1990年　２月　スパンクリート合成床工法　発明大賞受賞
1991年　２月　社名をスパンクリート製造株式会社から株式会社スパンクリートコーポレーションに変更
４月　スパンクリート合成床工法　科学技術庁長官賞受賞
９月　株式を公開（店頭）　資本金32億3,459万円に増資
1992年　４月　当社代表取締役社長　村山好弘　黄綬褒章受賞（スパンクリート合成床の発明考案など業務精励）
５月　株式を１対1.4 に分割
1993年　５月　岩瀬工場　ＪＩＳ指定工場となる
1996年　７月　本社を文京区本郷４丁目に移転
2003年　８月　Jスラブ（組立床工法）財団法人日本建築センターの構造評定を取得
2004年　３月　明星プレテック株式会社（4月プレテック株式会社に社名変更）の株式を100％取得
2005年　５月　宇都宮工場・岩瀬工場・設計部　ISO 9001認証取得
６月　原田穣代表取締役社長就任
11月　1単元の株式数を1,000株から100株に変更
2006年　３月　プレテック株式会社解散
10月　普通株式１株を２株に分割
2010年　６月　齊藤建次代表取締役社長就任

岩瀬工場